

## 野生動物による農作物被害を防ぐには

NO.5

### <ツキノワグマ編>

県内での獣類による被害の内、イノシシ、サル、シカに次ぐ4番目の加害獣がツキノワグマです。一般に怖いイメージが強いのですが、どのような動物なのでしょうか？



<果樹園に出現したツキノワグマ>

#### 特徴

体重 40～130kg

寿命：10年程度 産子数：0～3子

出産期：2月（冬眠中）

嗅覚・・・イヌ並に鋭い

視覚・・・悪い。接近しないと気づかない

聴覚・・・人間よりは良い程度。低音が聞き取りにくく人間の足音に気づかないことがある。

味覚・・・甘いものを好む

冬眠 12月～翌年4月 外からの刺激によっていつでも起き出すことができる。

#### クマ棚

ツキノワグマが木の実を食べた後は枝を折り、座布団のように固めたクマ棚が残る。これは、食べた後の枝を尻の下に敷く習性があるため（右写真はリンゴ）。



#### 被害の特徴

食物への執着が強く、徹底して食べるので被害は集中しやすい。圃場では座り込んで周囲の作物を食べつくすこともある。

#### 被害対策

電気柵による効果が有効。20、50、80cmの3段に電柵線を張れば良い。被害発生1～1.5ヶ月前から設置し、以後は柵を撤去しない。

#### 注意事項

- ・母グマが加害個体になるとその子供も農作物の味を覚え、執着するので、加害個体は世代を通じて増えることになりかねない。初期の対応が重要となる。
- ・クマはなわばりをもたず、複数頭のクマが同じ圃場を利用するため、クマを駆除しても被害が継続することが多い。そのため被害の軽減には、誘因物の除去や電気柵による囲い込み等の対策が必要となる。